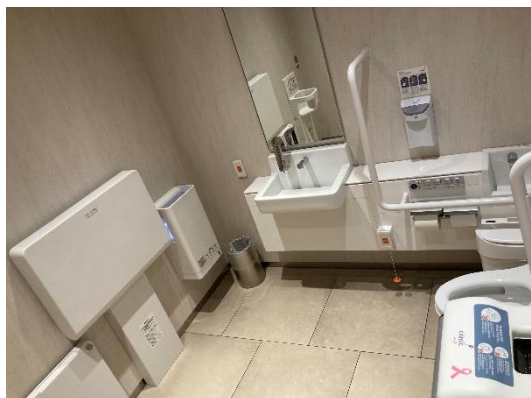


参考資料：介助用ベッド付トイレについて

【バリアフリーストイレのNG例】

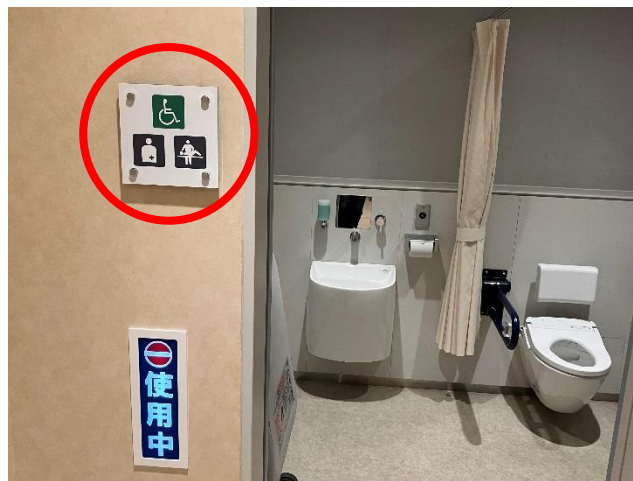


左の写真（恵比寿ガーデンプレイス）は乳幼児オムツ交換台、立って乗る着替え台、手すり付き便座、オストメイトなど多機能を備えますが、介助用ベッドが無く、車椅子ユーザーにとって十分な広さとは言えません。介助者が一緒に入る場合、狭くて介助の動きが取りづらいケースも散見されます。

【介助用ベッド付トイレ 好事例】

壁に収納できる介助用ベッドだけでなく、車椅子でも円滑に使える広さを備え、機能に関する表示が外側に掲示され、内部には仕切りのカーテンがあります。

（左：ミッドタウン八重洲、右：大田区民ホール、2024年撮影）



「だれでもトイレ・多目的トイレ」は設置数に対し、乳幼児連れやオストメイト利用者など対象者が広く、そこしか利用できない車椅子ユーザーが待たされる問題が発生しています。国土交通省のアンケート調査によると、多機能トイレで待たされた経験について、車椅子ユーザーの52.4%が「よくある」と回答したのに対し、オストメイトユーザーは16.5%です。令和2年度には「高齢者、障害者等の円滑な移動等人配慮した建築設計標準」が改正され、多機能トイレの機能分散化が進みつつあります。省スペースで設置できる簡易オストメイトや乳幼児用オムツ交換台を一般トイレ内に設置すれば、混雑緩和に繋がられます。